
世田谷区立郷土資料館

資料館だより

No.64

2016.3

—史料紹介—

滄浪閣唱和卷 (全3巻)



表紙の写真は、当館が平成 27 年度に購入した「滄浪閣唱和卷」である。縦 447mm、横 190mm、深さ 104mm の桐箱の中に、寸法のそれぞれ違う 3 巻の詩巻が納められており、その蓋には「日下部鳴鶴、巖谷古梅、矢土錦山筆／伊藤博文に寄す／滄浪閣唱和卷 三巻」との墨書がある。しかし、この 3 巻は、本来、題名も成立年代もそれぞれ異なる別々の詩巻である。もともと、台帳には、箱書にある「滄浪閣唱和卷」というこの名称をこれら 3 巻の総称として登録した。

3 巻のうちで最も成立年代が古いのは、①明治 21 年（1888）成立の「春畝相公夏島別荘唱和卷」（表紙写真右側中央・縦 354mm×横 4164mm・続本）である。春畝（伊藤博文）は、この年 4 月 28 日、夏島（現神奈川県横須賀市）にあった自らの別荘に旧友 8 人を招き雅宴を開いている。本詩巻は、その席上で作られた漢詩を、書聖と謳われた当代随一の書家・日下部鳴鶴が隸書体で浄書したものである。その折りの招待客は、岡本黄石、森春濤、森槐南、川田甕江、巖谷一六、日下部鳴鶴、神波即山、矢土錦山の 8 人であった。この詩巻には、彼ら 8 人の漢詩 19 首が収録されている。（写真 1）は、この巻の首にある岡本黄石の七言律詩である。以下にその翻刻と訓読および語釈を載せておこう。

〈翻刻〉

明治戊子暮春
春畝相公夏島別荘雅集席上
分韻得湖字 黄石岡本迪
従来此境喚名区況有主公風
格殊詩酒襟懷同北海雨晴景
象勝西湖清歌宛轉雲応過妙
墨聯翩席亦濡也似当年劉白
輩午橋莊裡探驪珠



日下部鳴鶴署名



写真 1

〈訓読〉

明治戊子の暮春、
春畝相公の夏島別荘雅集の席上にて、
韻を分かちて湖の字を得たり。 黄石岡本迪
従来此の境名区と喚ぶ
況んや主公の風格殊なる有るをや
詩酒の襟懷は 北海と同じく
雨晴の景象は 西湖に勝る
清歌宛轉として 雲応に過むべく
妙墨聯翩として 席も亦た濡う
也似たり当年 劉白が輩
午橋莊裡に驪珠を探るに

〈語釈〉

【明治戊子暮春】明治 21 年（1888）3 月。【春畝相公】伊藤博文（1841～1909）。春畝はその雅号。相公は宰相をいう。【夏島別荘】夏島（現横須賀市）にあった伊藤の別荘。【分韻】文人の雅会において、参会者が韻字を書いた圖を引き、それぞれが引き当てた韻字を用いて新たに詩を作ること。【黄石岡本迪】元彦根藩家老・岡本黄石（1811～98）。迪は名。幕末の混乱期、

幼い主君井伊直憲を補佐して藩政を主導したが、維新後は、政界から身を引き、漢詩人として活躍した。のち、麴町平河町に麴坊吟社を主宰し、明治漢詩壇の重鎮となる。墓は区内豪徳寺。【北海】現・山東省北海郡。後漢の北海の相であった孔融が客をもてなすためにいつも酒樽を満たしていたという故事「北海樽」（『後漢書』孔融伝）を踏まえる。【西湖】浙江省杭州市の西郊外にある著名な景勝地。西湖の雨晴の景観を詠じた詩に、蘇軾の「飲湖上初晴後雨／湖上に飲む、初め晴れ後に雨ふる」2首がある。【宛転】趣があつて種々に変化すること。【雲応遏】遏雲あつらんに同じ。空を行く雲をとどめるほどの妙を得た音曲。すぐれた歌声をほめていう。【聯翩】続いて絶えないさま。【劉白】唐の詩人・劉禹錫と白居易。ここでは、伊藤の別荘に招かれた旧友たちを劉白に擬える。【午橋荘】現江南省洛陽市の南にあった唐の進士・裴度の別荘。裴度は、この別荘に劉禹錫と白居易らを招いて雅宴を開き、詩酒琴書を楽しんだという（『旧唐書』裴度伝）。ここでは、この伊藤博文を裴度に擬える。【驪珠】黒龍の頤の下にあるという玉。得難く貴いものをいう。

②表紙写真右側左端の巻は、明治23年5月に、巖谷一六が浄書した「滄浪閣唱和卷」である（縦340mm×横1765mm・絹本）。題箋には「滄浪閣唱和 庚寅清和下浣來安孫点題字」との墨書がみえる。この題箋を書いた孫点なる人物は、清国公使黎庶昌に随行して同21年来日した清国公使館員である。

明治23年5月3日、矢土錦山と森槐南の二人は、その前年、伊藤博文が購入した小田原の土地にそれまで夏島にあった別荘の一部を移築して建てた「滄浪閣」を訪ねている。また、翌4日には、3人連れだって箱根塔ノ沢の洗心荘玉の湯に遊んだ。本詩巻は、その両日に錦山と槐南の二人が詠じた詩3首宛、計6首に、伊藤博文の七言律詩「滄浪閣偶作」と巖谷一六の七言律詩「奉和春畝相公滄浪閣偶作」を加えたものである。



巖谷一六の署名

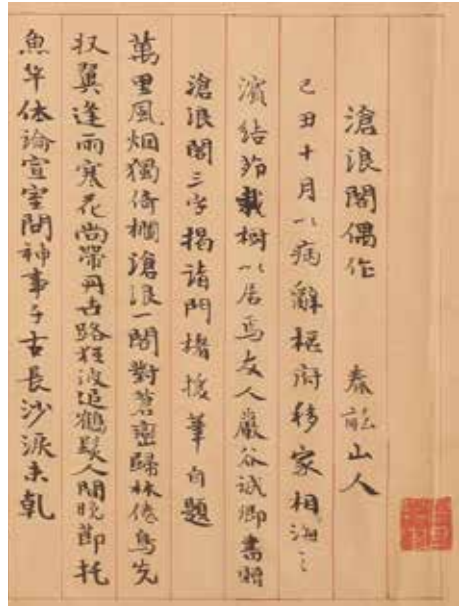


写真2

（写真2）は、この巻の首にある伊藤博文の七言律詩である。これについても翻刻、訓読、語釈を載せておこう。

〈翻刻〉

滄浪閣偶作 春畝山人
 己丑十月以病辭枢府移家相海之
 浜結茆菽樹以居焉友人巖谷誠卿書贈
 滄浪閣三字揭諸門楣援筆自題
 万里風烟獨倚欄滄浪一閣對蒼巒
 林倦鳥先收翼逢雨寒花尚帶丹
 世路狂波追鶴髮人間晚節托
 魚竿休論宣室問神事千古長沙淚未乾

〈訓読〉

滄浪閣偶作 春畝山人
 己丑十月、病を以て枢府を辞す。家を相海の浜に移し、茆ぬなわを結び樹を栽え、以て焉ここに居す。友人巖谷誠卿書して滄浪閣の三字を贈らる。諸を門楣もんびに掲げ、筆を援よりて自ら題す。
 万里の風烟 独り欄に倚る
 滄浪一閣 蒼巒に対す
 林に帰りて 倦鳥先ず翼を収め
 雨に逢いて 寒花 尚お丹を帯ぶ
 世路の狂波 鶴髪を追い
 人間の晩節 魚竿に托す
 論ずるを休めよ 宣室に神事を問わるるを

千古の長沙 涙未だ乾かず

〈語釈〉

【滄浪閣】夏島にあった邸の一部を小田原に移築して建てた伊藤博文の別荘。伊藤はここに籠もって大日本帝国憲法を起草したと伝えられる。因みに「滄浪閣」の典拠は『楚辞』漁父。【己丑】明治22年（1890）。【滄浪閣偶作】この詩は『藤公詩存』『春畝公詩文録』にも収録されている。【枢府】枢密院の異称。伊藤はこの年10月30日、枢密院議長職を辞し、宮中顧問官となった。【巖谷誠卿】巖谷一六（1834～1905）。近江水口出身の政治家、書家。名を修という。誠卿はその字。内閣書記官・元老院議員などの職を歴任。来日中の清国人・楊守敬に碑学を基礎とした「六朝書道」の筆法を学び、のち、一世を風靡した。岡本黄石が主宰した麴坊吟社の門人でもある。【門楣】門の上の横梁。【蒼巒】あおい山。【歸林倦鳥】飛び疲れた鳥。鳥倦飛而知還／鳥 飛ぶに倦んで還るを知る（陶淵明「歸去來の辞」）を踏まえる。【休論宣室問神事】賈生徵見。孝文帝方受釐、坐宣室。上因感鬼神事、而問鬼神之本。／賈生徵されて見ゆ。孝文帝方に釐を受け、宣室に坐す。上 鬼神の事に感ずるに因りて、鬼神の本を問う（『史記』賈生列伝）を踏まえる。漢の賈誼は、年若くして太中大夫の位に昇り、礼楽規定細目の草案をつくった。しかし、却って諸侯の妬みを買うこととなり、長沙王の太傅に左遷されてしまう。左遷後、久々に賈誼を都に召し鬼神の本質について聞いた文帝は、改めて彼の卓越した知識を褒めたという。大日本帝国憲法を起草したのち、枢密院議長職を辞して宮中顧問官となった伊藤は、この詩の中で、自らを賈誼に擬えたのである。宣室は天子の執務室。【鶴髮】鶴の毛のような白い頭。ここでは白髪頭の翁すなわち伊藤自身をいう。【托魚竿】釣りをして暮らす。隱栖するをいう。【千古長沙涙未乾】賈誼が諸侯の制し難いのを深く悲しみ嘆いた故事「長沙痛哭」（『史記』賈生列伝）を踏まえる。

③表紙写真右側右端の詩巻は、明治26年に矢土錦山が浄書した「陽和洞題詠巻」（縦391mm×横1075mm／続本）である。

同年正月元旦、伊藤博文は、女婿・末松謙澄、矢土錦山らを伴って大磯にある岩崎弥之助の別邸に遊んだ。風光明媚な大磯の自然をいたく気に入った伊藤は、一夕、酒宴の席で、矢土錦山に命じて岩崎邸に名前を付けさせた。この時、矢土が撰んだ名が「陽和洞」であった。この宴席では、京都にいる副島種臣から偶々寄せられた漢詩も披露された。本詩巻には、矢土錦山、末松謙澄、森槐南、副島種臣の詩39首を収録する。（写真3）は、巻尾に附された矢土錦山の跋文である。これについても翻刻、訓読、語釈を載せておく。

〈翻刻〉

今茲癸巳春初 春畝相国游浴
大磯僚属僕隸之外特召余伴随館
于岩崎氏別荘々依爽塏削崖開徑
鑿邱通竇樓臺雅潔眺覽曠遠浮
嵐煖翠交來相揖相国顧余曰閑中
日月壺裏乾坤与汝輩逍遙於山阻
水涯間浴沂風舞頤神養氣不亦
聖世之恩沢乎宜函報効矣余唯々耳
一夕讌酣相国命余撰莊名余擬以陽和
洞取白樂天還有陽和暖活身句也
末松青萍森槐南左右贊之相国亦
称善偶有京信接副島樞密置韻酬
余詩其詩云知隨相国召登去是瀛洲
元自儒名大那論身世浮春雲入回雁
暖浪足眠鷗我亦宜追伴疎慵竟未瘳
併録以鳴余榮且以補洞天仙福也
明治廿六年春王正月識於陽和洞
天嶽色玲瓏之処

錦山芻蕘矢土勝之

〈訓読〉

今茲癸巳の春初、春畝相国大磯に游浴す。僚属・僕隸の外、特り余を召して伴随せしめ、岩崎氏の別荘に館る。莊爽塏に依りて、崖を削り徑を開き、邱を鑿ち竇を通す。樓臺雅潔にして、眺覽曠遠なり。浮嵐煖翠、交ごも来りて相揖まる。相国余に顧みて曰く、閑中日月、壺裏乾坤に汝が輩と山阻水涯の間に逍遙して、沂に浴して舞に風し、神を頤い氣を養うは、亦た 聖世の恩沢ならずや。宜しく報効を図るべし、と。余唯々たるのみ。

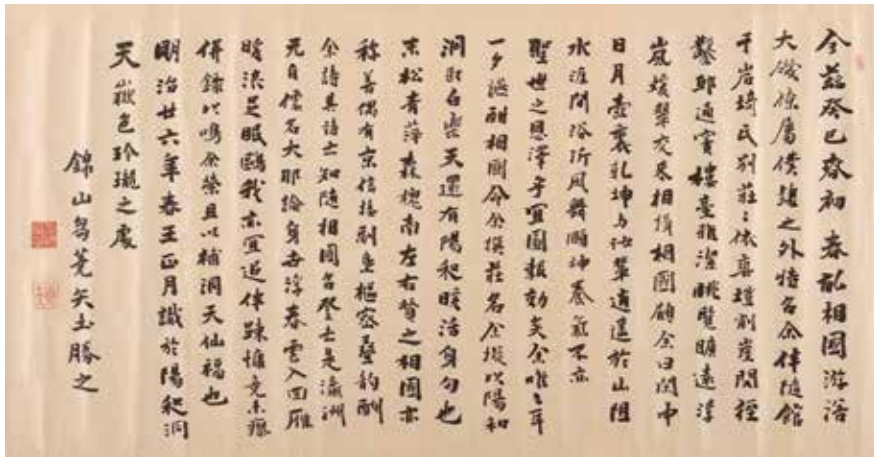


写真3

一えんたけなわ夕、謙けん酣かんにして、相国 余に命じて莊名を撰せんびしむ。余擬するに陽和洞を以てす。白樂天の「還た陽和暖活ぬくの身有り」の句を取る也。末松青萍・森槐南、左右之れを賛し、相国も亦た称善す。偶たま京信有りて、副島枢密の豊韻して余が詩に酬ゆるに接す。其の詩に云う、知る 相国の召に随い、登去すれば是れ瀛洲なるを、元 自おのずから儒名大なれば、那ぞ身世の浮うぐるを論ろんぜん、春雲は回雁かいえんを入れ、暖浪ぬるなみは鷗うを眠いらしむるに足る、我れも亦た宜しく追伴おしばんすべきも、疎慵そよは竟に未だ瘳しうず、と。併録して以て余榮を鳴らし、且つ以て洞天仙福を補う也。

明治廿六年、春、王正月、陽和洞天巖色玲瓏の処に識す。 錦山芻蕘すうじょう矢土勝之

〈語釈〉

【癸巳】明治26年(1893)。【岩崎氏】岩崎弥之助【爽塹】高燥で明かな土地。高台の土地。【浮嵐暖翠】浮嵐暖翠に同じ。漂う山気と薄暗く茂った樹立の翠色。山の姿態の変化するをいう。【揖】あつまる。【壺裏乾坤】壺中天地に同じ。別天地をいう。【浴沂風舞】浴沂風舞雩／沂に浴して舞雩に風す(『論語』先進)。門弟とともに郊外に遊ぶを楽しむをいう。【唯々】おもねり順うさま。【報効】恩返しをすること。【白樂天還有・・句】七言律詩「早春招張賓客」の第四句目。【末松青萍】末松謙澄(1855～1920)。青萍はその号。伊藤博文の知遇を受け、明治11年、外交官として渡英。のち、伊藤の女婿となる。【森槐南】(1863～1911)。明治漢詩壇の重鎮・森春濤の嫡男。明治14年太

政官に出仕。三条実美、伊藤博文の知遇を受ける。ハルピンで伊藤が遭難した際は、随行して銃創を負っている。また、伊藤の死を悼んで詠じた「帰舟一百韻」は有名。【副島枢密】副島種臣(1828～1905)。明治の政治家。この時、枢密院顧問官の職にあった。蒼海と号し、詩書を能くした。殊にその書は今なお人気が高い。【豊韻】同じ韻字を使って詩をつくること。【知随相国・・】この詩は、『蒼海詩選』巻四にも収録されている。【瀛洲】東海中にあって神仙が棲むと伝えられる山。【身世浮】身に余る立身出世。【春雲入回雁】暖浪足眠鷗】直訳すれば「春の雲は北に帰る雁を迎入れ、暖かい浪は(穏やかで)鷗を安眠させるに足る」といったところか。回雁は、俗事を離れて元いた場所へ帰る者をいい、鷗は世俗のしがらみから解き放たれた隠者をいう。ここでは、いずれも伊藤を指している。【疎慵】おろそかにしてなまけること。無精にすること。【余榮】後世に遺る栄誉。身に余る栄誉。【洞天】神仙の住むところ。【玲瓏】明るく光り輝くさま。【春王】春の季節。陽春。正月。『春秋』隠公元年に「元年、春、王正月」とある。【錦山芻蕘矢土勝之】矢土錦山(1851～1920)。伊勢勢和村(現松坂市)の出身。名は勝之。錦山と号す。維新後、明治新政府に出仕。伊藤博文の知遇を得る。森槐南とともに詩侶として伊藤の側近くにあった。伊藤遭難の後、郷里に隠棲し、各地に講説した。また、岡本黄石が主宰した麴坊吟社の門人でもある。芻蕘は、自分の文章・作品をいう謙語。

(文責 当館学芸員・武田庸二郎)

平成 27 年度特別展「世田谷の土地」 アンケート結果

11月3日～12月6日 開館日数 30日

期間中入館者数 1955人 回答数 114

1. お客様自身についてお聞かせください。

①来館は何回目ですか。(無回答1)

・初めて35・2回以上78(2回～5回21・6回以上20・多数6・不明31)

②この展覧会は何で知りましたか。(複数回答あり)

・区のお知らせ「せたがや」で20・看板、ポスターで32・チラシで24・区のホームページで13・知人、友人、家族の紹介8・学校からの紹介5・フェイスブック・ツイッター等SNSで13・その他26・未記入2

③本日はどなたといらっしゃいましたか。(無回答1)

・一人で88・家族と14・友人と6・その他5

④お住まいはどちらですか。(無回答1)

・世田谷区内72・世田谷以外の東京都内24(杉並3太田3練馬2港2江東2目黒1足立1渋谷1新宿1板橋1墨田1調布1三鷹1小平1八王子1町田1)・その他17(川崎7横浜2船橋1大和1横須賀1茅ヶ崎1朝霞1相模原1藤沢1)

⑤年齢(無回答2)

・10代以下2・20代5・30代7・40代21・50代29・60代17・70代24・80代以上7

⑥性別(無回答22)

・男66・女26

2. 展覧会をご覧になった感想をお聞かせください。

①展示の内容に満足いただけましたか。(無回答3)

・大変満足35・満足54・やや不満20・不満2

②上記の答えを選んだ理由をお聞かせください。

●大変満足の理由

・I 近世の村絵図の「世田谷領二十ヶ村絵図」に品川領用水の文字を発見したこと。・都市に興味があり、展示内容が見ごたえがあったため。・区の職員で、仕事で境界画定業務を担当していました。普段は白黒でしか見たことのない玉川全円の確定図の原図を拝見し感動いたしました。・普段見ることのない詳細な村絵図がたくさん展示されていたので。・世田谷のルーツの探求に良い資料が沢山あった。・郷土関係を見るのが好きなので。・展示されているものが、見やすいものだった。わかりやすかった。・地域の文化歴史を知る事は世田谷愛土心が深まります。・新旧の地図を並べて展示されておりわかりやすかった。・古い道具を見ると近代の発展も最初の一步の延長なのと思った。・大変判りやすく、展示、表示にも工夫があった。・わかりやすい展示でした。・世田谷の昔の地形を前から知っていたので、それをよりくわしく知れたから。・世田谷の歴史を地図を軸に学ぶことが出来、非常に勉強になった。・絵図が網羅されて圧巻・地図、地形マニアなので。・近世から展示され、絵図の様相や役割の変遷が把握しや

すかった。・世田谷の昔の様子を伝える古地図が沢山あった。・地方から出てきて50年、今居る所の歴史が理解できた。・深い。詳しい。・図や解説が客観的で解りやすく展示されていました。・昔の地図と近世の地図があるから。

・航空写真で拙宅が出ていましたので、感動いたしました。・先人の苦労と、江戸時代にここまで地図が作製されていたこと。・比較しやすくなってよくわかりました。・地図と区画整理に興味がありました。・理由という訳ではありませんが、知識として観覧したため。・初めて見る地形図等、すばらしかった。

●満足の理由

・展示物品の量が多すぎないのは良い。地図をもう少し自分で見たかったのですが、ウィンドウの中ですと、字が小さすぎて読めなかった。・自宅のルーツの一端を見られた。・昔の人の生活の中で、土地を客観的にとらえることが大切にされていたことを想像し、興味ぶかかった。・土地整理のことが興味深かったです。・砧地域に住み続け、35年、今、大蔵での地域社会人活動も始めました。マップづくりも考え中。大蔵エリアを新しく地域交流できる場のひとつとしてプランを立案中。来春から実際に動き出します。いろいろ調べているうちにこの展示を知り、地形や地図への興味もあって拝見しました。地図は様々なことを想像させてくれる宝ものです。描く活動プランに新たなアイデアが加わりました。・普段見られない絵図が見られた。・以前、当区に住んでいたので、関心あり。・多くの史料をじっくり見てまわることができ、背景事情なども知れて面白く見させてもらいました。・本物の古地図を見られる機会がありませんので、楽しめました。・がびょうがさしてあるのかと思いました。学校名や民家園など、もう少し目印があるとわかりやすかったです。・ていねいな展示である。古地図を並べて「～図面」でお知らせするだけでなく、あらたにグラフィックを作成して当時の状況を整理したり、現在の地図や航空写真を並べて当時と比較したり、それによって見学者と古地図をぐっと引きよせることができ、古地図からいかなる情報をひき出せるかを示すことができるのではないかと考えた。古文書の解説もありがたい。さらに現代語訳もあればいいなど、この見学者は我がままなことを言うのである。すいませんね。このような史料と人を近づける努力は博物館として大変重要であり、とくに、地域のなりたちを知る上では大いに役立っている。評価されるべきだ。個人的には明治以降の土地整理に関心があり、玉川以外も、もう少し見たかったし、時代から考えてももう少し写真を入れてどのように工事をしたかがわかれば、それと京王、小田急と土地改良の関係(東急はわかるか。)とかそのあたりまでわかれば、もう満点でしょうと思ったのですが。まあ素人の思いですが。ともあれ、「あっ三軒茶屋ってのっている」とか、「馬引沢って何(→下馬、上馬かあ)」とかいろいろなことを思いながら見る事ができた。これは地味かもしれないが、大変有意義な企画展なのである。・宅地化が進む前の世田谷の様子を知ることができた。・現代との比較が分かりやすかった。・地図に興味があった。・現在図に併設・自宅近くの品川用水に興味をもち、古地図(レプリカ)等で自分の楽しみにしている。その延長で

来ました。・よくここまで資料を集められましたね。・絵図と現在の地図、写真がありわかりやすかった。・実家周辺の昔の様子があった。・区内の古地図が面白かった。入口の航空写真も。1Fに掲示のあった古写真のその他の収蔵品が欲しかった。・古絵図の現在の写真等で比べられるのが良い。・世田谷の昔の状態が理解できた。・かなり難しく図面はよめない。参考にはなる。・にた図が多いので、数を少なくしてくわしく解説してほしいです。・間近で見られたこと。・面白い図面が多かった。・内容がとても充実しており、すばらしい展示だと思います。ただ消化不良ぎみなも確か。・おもしろい。

●やや不満の理由

・資料保存のため、照明をおさえているのは理解できるが、近世のウォールケースに貼った説明は読むことができなかった。高齢者にもう少し配慮していただければと思う。せっかく見に来たのに残念でした。・もう少し、明治、昭和初期のようすも知れたかった。・解説文が見づらい。・生まれた土地の関係が無い。・区内全域がない。私の町なし。・区内の農地改革（ww2後の）について知れたかった。写真以外の出典、典拠も記すべきではないですか。・殆どの文字や図が理解できない。当時の測量方法が分からない。・説明文の字を大きく・若干新鮮味と迫力に欠けている？もう少し土地の標高、用途など分野別詳細な展示をするとなおベター。・絵図の字など細かく読めなかった。・文字が小さくてつまっていて読みづらい。明朝体で行間が狭く説明文が読みづらかった。順路がわからなかった。見ているうちに逆にまわったのかと思ったが表示がなかった。・照明が暗く、細部が見えにくい。

●不満の理由

・保存面からやむを得ぬとも思うが照明不足で読取れない。
・展示物の対象範囲が狭い。彦根藩領だけ？

●その他の意見・感想

・大変に満足いたしました。その上で、順路がわかりにくかったのは残念でした。また、対比の地図（現代）が北を上とする固定フォーマットのためどうしても見にくく感じてしまいました。回転可能web地図を承諾を得て使うのは難しい？何か良い方法があれば次回は。・全体がⅠⅡⅢと大別され、非常にわかり易い。図録も秀逸で安い。・こう言った展示、大変興味があるので又見たいです。子供達にも見せたいです。・見ているのが私1人でもったいなかった。・階段を上ったところに、企画展の表示がほしかった。各史料の説明文がもう少し大きい字で書かれていればよかった。近づいて見られる史料の場合は小さ目の字でも読めるが、遠いものについては小さくて読みづらいものがあった。・常設できる施設が別に出来ると良いですね。・このアンケートの設置場所が出口付近にあるのもっと書く人も多いと思います。・隣接区との境界の歴史が知りたい。世田谷区と杉並区の区境が複雑な理由、甲州街道の宿場（高井戸宿）が杉並区側にある理由など。・文章は小さな子供が読んでもわかりやすい平易な言葉でも書かれていると嬉しいです。・古地図や古い路線図などを使ったグッズ（クリアファイルとか）があると欲しいと思いました。・区画整理がいかに大変だったかが余り書かれていない。

・地租改正の地引絵図がもっとあれば、見たかった。・再度来訪したいと思います。有意義な時間でした。・配布、販売資料ももっと読みやすい物がいい。・図録も充実しているようで、拝見するのが楽しみです。・古地図が読めないの、現代との対比をわかりやすくしてほしい。・「馬と世田谷」一軍とか目黒競馬場との関係とか「世田谷幻の鉄道」一砦線の延長計画、井の頭-小田急連絡線「富士山と世田谷」一練馬でやっていたような内容的でもないかしら？等勝手に希望します。・個人的には有料化もいいと思う。・展示品（絵図）が何かの書誌に掲載されていたら何という本にのっていると図録に記載してほしい。・とても良い場所なのでこれからもずっとここがあればと思っています。・より近代の世田谷の発展を地図と比較して学んでみたい。・ケース奥の解説文の文字が小さいものがあつた。よみにくい。現代地図に絵図の区画が表示されると比較しやすい。・館内の順路表示が無いので、逆方向から回ってしまった。「順路」を設置した方がよい。・大きな区なのですから、もっと催物や活動を活発に行って区民を啓発して下さい。・順路がわかりにくかった。展示ケース内の説明プレートの文字が見にくかった。・照明が暗すぎる。設備がすぎ？・全体として大変な事業だったことは想像できました。・現代の地図との対比を、もっと見やすくしてほしい。二重写し風にするなどして。・いささか老眼のため、細かい字がよく読めないの、どうか工夫いただければと思います。・展示パネルの文章の文字サイズを大きくすると見やすくなる。・世田谷区の池があった所、知りたい。・地図とガラスが離れていて良く見えない。欧州の展示方法の様にもっと近くで見られれば良い。・近代も詳しくしてほしい。・説明文のポイントが小さく見えづらかったです。・世田谷城を基点に企画されるとおもしろいと思いました。・解説があるといい。・図については、もう少し近くから見られると助かります。・世田谷の鉄道とバスの展覧かいをやってほしい。・又是非寄せさせていただきます。・その昔私が植木屋でしたので、12月、1月とお話に成りました。・航空図は面白い。・昔の名残のある今の土地の写真があるとよいかと思う。一般区民対象というより、詳しい研究者向けの展示。一般がわかる程度の内容がよい。コピーした今の地図昔の地図が小さく見づらい。大きくコピーしたものは見やすくて良かった。テーマはよく、興味があつて期待していたが残念なところは次回に生かしていただけると嬉しい。・近老眼であるためガラスケースの中の展示物を見るのは苦しいです。・もっと網羅的なものかと思った、自分の分はなかった。世田谷区全体の江戸からの歴史地図がみたい。・世田谷区地域の幕末～明治の動向について、企画するものがあればお願いします。・毎年子どももわかる展示をしてほしいです。むずかしい漢字には振り仮名をつけてほしい。・解説等もう少し詳しいとより楽しめたと思います。・学芸員の説明があればいいと思います。・世田谷区内の川（烏山川や北沢川、丸子川）品川用水や三田用水などもやっていただけたらうれしいです。※川というより用水ですね。・同時販売の本が900円なのにカンゲキ、購入させていただき、家に帰って勉強させていただきます。どうもありがとうございました。

27年度 主要事業報告

◎展示

タイトル	開催期間	開催日数	入館者数
季節展 螢とさぎ草伝説	6月27日(土)～8月2日(日)	32日間	3982人
特別公開 板絵着色大蔵氷川神社奉納絵図 一鮮やかによみがえる大蔵本村一	7月22日(水)～9月6日(日)	41日間	2152人
特別展 世田谷の土地—絵図と図面を読み解く	11月3日(火)～12月6日(日)	30日間	1955人
季節展 ボロ市の歴史	12月15日(火)～1月31日(日)	34日間	30810人
企画展 区内発掘調査速報展	2月6日(土)～1月31日(日)	49日間	

◎歴史講座

講座名および実施日	講師	参加人数
漢詩漢文鑑賞講座(全5回) 5月12日～6月9日 毎週火曜日	村山吉廣(早稲田大学名誉教授) 重野宏一(筑波大学大学院生)	延169人
民俗学入門講座(全5回) 5月4日～6月1日 毎週木曜日	恵津森智行(当館学芸員)	延128人
夏休み親子香道教室 8月23日	公益財団法人お香の会	41人
美術史講座「世界遺産の仏教美術」(全6回) 11月1日～12月6日 毎週日曜日	村松哲文(駒澤大学教授)・金子典正(京都造形芸術大学教授)・ 山田磯夫(早稲田大学教授)	延242人
近世文書解読入門講座(全8回) 2月6日～3月26日 毎週土曜日	武田庸二郎(当館学芸員)	
美術史講座「近世の仏像美術」(全4回) 2月5日～2月26日 毎週金曜日	鈴木泉(当館学芸員)	
やきもの見方(全4回) 3月4日～3月25日 毎週金曜日	高杉尚宏(当館学芸員)	

◎野外歴史教室

コース名	実施日	講師	参加人数
次大夫堀周辺を歩く	5月13日(水)	恵津森智行(当館学芸員)	34人
荏原台古墳と等々力溪谷を歩く	5月22日(金)	高杉尚宏(当館学芸員)	29人
浄真寺を訪ねる	11月6日(金)	鈴木泉(当館学芸員)	28人

《新収蔵史料》

○寄贈史料

『帝都復興祭志』『歌舞伎町』
『東京・空地地区 議案綴』
南雲孝之(桜上水)

教科書一括
松村朋子(上野毛)

古文書・古写真等一括
芹沢良明(羽根木)

○寄託史料

古文書一括
田中整子(駒沢)

○購入資料

岡本黄石筆 草書五言絶句「出処成何事」
日下部鳴鶴ほか筆「滄浪閣唱和巻」

岡本黄石ほか筆「諸家寄書書画卷」
三代目広重筆 錦絵「東海道五十三次一覧」
絵はがき「井伊大老銅像除幕式記念」
五千分の一 東京二三区地形図(昭和36年)

資料館だより	No.64
発行年月日 平成28年3月31日	
編集発行 世田谷区立郷土資料館	
〒154-0017	
世田谷区世田谷1-29-18	
☎ 03-3429-4237	
Fax 03-3429-4925	
広報印刷物登録番号 No.1334	